

海洋汚染問題を考えよう

実施校:ボーイスカウト草加第7団及び関東のスカウト 教諭名:カブスカウト隊 隊長 濱田 真輔

対象 小学1年～大人

科目 地球環境を考える
(SDGs)

時間 2024/11/30
2024/12/15

参考資料

『あおいほしのあおいうみ』
カブブック、チャレンジ章ブ
ック、ボーイスカウトハンドブ
ック

単元名

海洋汚染問題を解決するのは誰だ!!!

目標

- その1 海洋汚染問題とは何かを学ぶ。現実に行っていることを全員で共有する。
- その2 子どもだけでなく、スカウトの保護者、スカウト活動を支援していた指導者や団関係者全員で考える。
- その3 自分たちができることを考えて、大人から子どもまで全員の前で各自が考えたアイデアを実行宣言として発表する。

期待できる学習効果

- ・その1 普段何気なく飲んでいるペットボトルが、その後地球汚染にどのように繋がっているかを海岸やその他の地域清掃を通して、どうしてこんなことになったのかを理解する。
- ・その2 自らの問題として、どうすれば解決できるかを考え、自分たちで解決する能力を育む。
- ・その3 大人も交えてSDGsが全員の課題であることを理解してもらい、皆の前で発表することと質問に答えることで、コミュニケーション力の醸成に役立てる。

授業内容

【背景】

ボーイスカウトは、良き社会人を育てることを目的に全世界で実施しているボランティア活動です。ボーイスカウト草加は、埼玉県草加市で活動していますが、日頃から東京や神奈川のスカウト、時には米軍基地のスカウトとの交流を通して、SDGsについて考える機会を作っています。企業人としてSDGsを推進しているボーイスカウト指導者は多く、私も国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(UNGCNJ)の活動に現在でもかかわっています。そのため日頃からスカウト活動にSDGsの課題解決を考えるプログラムを提供し、自ら実行したら誉めてあげることを繰り返しています。今回は関東から集まるスカウトへ声をかけて、環境問題を考えていただきました。

【活動の基本と事前学習】

- 学校の教育方針や指導要領では行えないことを活動に組み入れています。
- 今回実施したテーマに際し、【あおいほしのあおいうみ】ブックをスカウトだけでなく、各団体の指導者にも配布し、いくつかの章について各地域で考えてもらうように伝えました。
- 今回は2回に分けて、今回の海洋汚染問題について考えていただく機会を作りました。
- 1). 2024年11月30日 第13回日米親善鎌倉ハイキングにおいて、参加者全員に海洋汚染問題を考えていただく。東京・神奈川・埼玉・静岡そして米軍横須賀基地のスカウト(総勢200名)が鎌倉に集まり、ハイキングを行うと共にSDGsを考えさせる機会を持った。今回、当イベントは13回目となり、以前から鎌倉材木座海岸の清掃奉仕等を実施するなど、スカウトには毎回自然について考えてもらうプログラム(特にマイクロプラスチック)をみんなでも考えてもらった。
 - 2). 2024年12月15日 ボーイスカウト草加第7団クリスマス会において、自然環境保全についての課題を与え、どうしたらよいかを考えてもらう機会を実施した。

海洋汚染問題を考えよう

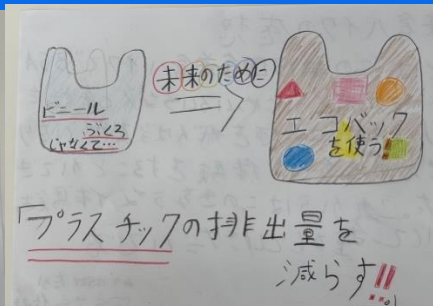
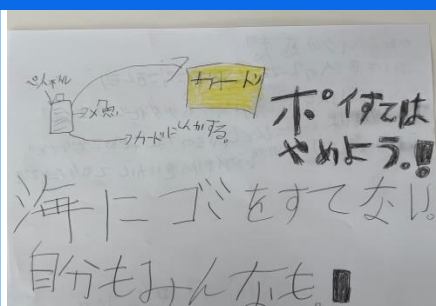
実施校:ボーイスカウト草加第7団及び関東のスカウト 教諭名:カブスカウト隊 隊長 濱田 真輔

授業内容2

- ・東京、神奈川、静岡、埼玉、米軍横須賀基地に所属する300名のスカウトが一同に会し、海洋汚染問題について考える。大学生のスカウトがリードし、人間がおこした課題を解決するのは自分たちだと認識させるプログラムを提供した。
- ・鎌倉のスカウトは普段から材木座海岸の漂流物を拾う活動をしており、また他の地域のスカウトも沿道のゴミ拾いを実施しており、環境問題を自分ごととして日頃から考える素養がある。



子どもたちの反応・感想



- ・これからはペットボトルは洗ってリサイクルする(スカウト 中学1年生)
- ・マイクロプラスチックを毎日からだの中に入れているのは怖い。捨てるゴミを少なくする(スカウト 小学3年生)